

1 学校教育目標
「心豊かで たくましく 賢い風の子」の育成 < ハート & パワー & インテリジェンス >

2 学校経営ビジョン
(目指す学校像) ・読書活動を推進する学校 ・生き生きと活動する学校 ・共に学びあう学校 (目指す教師像) ・豊かな人間性を持つ教師 ・教育愛に燃える教師 ・指導力に富む教師 (目指す子ども像) ・感性豊かな子ども ・健康でたくましい子ども ・自ら学び考える子ども

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>①基本的な生活習慣及び学習習慣の育成を図る。</p> <p>②全ての学習の基礎となる「読む力」を高めるために、さまざまな手立てを講じ、基礎的・基本的な学力の向上をめざす。</p> <p>③「魅力ある学校づくり推進事業」を中核として、地域人材を活用した体験活動を多く取り入れ、心豊かな人間性を養う。</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習習慣の定着では、「学習の5つの決まり」を全校共通に指導し、落ち着いた態度で学習に取り組むことができた。基本的な生活習慣に関しては、高学年になるにつれて、できるようになってきているが、やはり家庭の協力が不可欠である。 校内研究の学力向上と連動させて、基礎学力の向上を図った。その結果、漢字や計算のスキル面で正答率82%を達成した。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育方針については、機会ある毎に情報発信してきた。特に、認知度を高めるには、開かれた学校づくりと連動し、教育活動での児童の様子を通して、実感できる工夫をしたい。 基本的な生活習慣及び学習習慣については、低・中・高学年の発達段階に応じた指導を行い、確実に定着を図りたい。 基礎的な学力の向上に向けて、全ての学習の基礎となる「読む力」を高めたい。そこで、すらすら読める児童を75%以上にし、家庭での親子読書を推進したい。 学力向上を進める上で大きな土台となる安心して学習できる温かで支持的な学級・学校づくりを目指す一方策として、地域の人材を活かした体験活動を推進する。

5 総括表						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学校運営	○ 学校経営方針	本年度の重点目標の周知	・教職員、児童、保護者に周知する。認知度を 教職員は100% 児童は90%以上 保護者は80%以上にする。	B ・重点目標の認知度は、教職員100%、児童92%、保護者70%であった。昨年度よりは認知度が高くなったが、引き続き保護者への周知が課題である。	・職員会議、全校集会、学校評議員会等で説明する。 ・学校便り、PTA総会、学級懇談会等々に周知し、具体的取組を説明する。 ・学校リーフレットを作成配布する。 ・具体的目標等を掲示する。	・機会ある毎に繰り返し便り等で情報発信したりしながら認知度が高まるように心がけ、ある一定の成果は上がった。 ・今年度は、校長が発信する「学校便り」を学校HPに掲載した。このことも認知度を上げる1つの要因になったと思われる。今後、さらに保護者・地域にわかりやすい形で発信するには、どのような工夫が必要であるか考えていく必要がある。
	○ 開かれた学校づくり	開かれた学校づくりの推進	・授業参観など学校開放期間中の来校者を、保護者70%以上、地域住民30名以上にする。	A ・授業参観への保護者参加率73%、地域からの参加者のべ35名であった。	・保護者に、おたよりや児童の手紙を通して来校を促す。 ・町報や町内掲示板、回覧板での広報活動を行う。	・年度途中からではあったが、学校HPで授業参観の内容を知らせるようしたり、地域の方々には直接電話で参観のお誘いをしたりした。より参観しやすくするために、周知の方法を工夫していかなければならない。
教育活動	● 学力の向上	基礎基本的な学力の定着	・教科書をすらすら読める児童の割合を75%以上にする。	A ・各学年の設定した目標を達成した児童の割合が、およそ80%であった。	・多様な音読の学習指導法の開発 ・国語タイムや教科等での音読の導入 ・ワークショップ型研修会の実施	・低学年、中学年、高学年の全ての学年部において、すらすら読める児童の割合75%を達成することができた。 ・2割程度の児童が、十分にはすらすら読むことができていない現状にある。音読が苦手な児童に対しての有効な手立てを明らかにしていく必要がある。
		家庭学習の習慣化	・家庭での学習時間を80%以上ができるようにする。 1,2年：20分以上 3,4年：40分以上 5,6年：60分以上	B ・目標時間をほぼ達成している児童の割合が、保護者のアンケートで76%、児童のアンケートで78%である。	・便り等で、家庭学習の意義・内容・時間等について呼びかけ、啓発する。	・学習カードやプリントなどきめ細かな手立てを取ってきたが、家庭での目標とする学習時間を達成するまでには至らなかった。 ・学年が進むにつれ、家庭での学習時間が十分には達成できない児童が増える傾向にある。低学年の間に学習習慣が身についていない、自分で課題を見つけ出す力が十分ではない等の要因が見られる。児童が興味関心を高めることができるような課題やその与え方などを工夫する必要がある。
		読書活動の日常化	・週に2回の「朝の読書」で、進んで読書しようとする児童を90%以上にする。 ・家庭で10分間読書に取り組む児童が全校児童の70%以上にする。	B ・学校の「朝の読書」についてできていると答えた児童は90%で、家庭での読書は76%であった。家庭での読書習慣が課題である。	・読書週間を設ける。 ・アンケートを取り、自分の読書活動のふり返りをさせる。	・学校での朝読書の取組は、どのクラスも徹底してできている。どの児童も集中して読んでいる姿がみられ、好きな時間として定着している。しかし、それが家庭での読書習慣にはつながっておらず、個人差が大きくなっている。今後、家庭の協力を得ながら読書時間を広げる工夫が必要である。

● 心の教育	友だちの光るところ探しの推進	・「友だちのきらきら探し」を全体で年に6回以上実施する。	B	・児童の「心の教育」に関するアンケート項目については、91.5%がほぼ達成していると答えている。	・さまざまな視点を工夫して、人の「よい所」に目を向けさせることを繰り返す。 ・「友だちのきらきら探し」で視点のよい作品を校内放送で紹介する。	・定期的に書くことで、ほかの人の「よさ」に目を向けさせるとともに、自分にもあてはめて振り返らせることができる場になっている。また、子どもたちの自尊感情を高める役割も持っている。 ・時間を見い出せずに、校内放送での紹介ができなかった。
○ 生徒指導	生徒指導の充実	・生徒指導目標としている「廊下で出会った人にあいさつをする」「トイレのスリッパを整頓する」「廊下は右側を歩く」「無言で掃除する」の4つのめあてそれぞれ80%以上の児童が達成する。	A	・あいさつ89%(保護者認知86%)、スリッパ並べ86%、廊下歩行83%、無言掃除89%の達成率である。	・朝会や学級指導の場で、具体的に指導する。 ・生徒指導打合せ会で、情報交換をして共通理解を図る。	・月の生活目標を、あいさつ・トイレスリッパの整頓・廊下歩行・無言掃除の4つを基本として繰り返し指導するようにしたことによって、児童の意識が継続するようになった。 ・あいさつについては、地域でのあいさつが少ないという指摘があり、校外で進んであいさつすることができるように指導する必要がある。
● 保健・体づくり	食育を含めた健康教育の充実	・「早寝・早起・朝ご飯」の意識を児童・保護者とも90%以上にする。 ・朝食や給食をしっかりと食べる児童を90%以上にする。	A	・「早寝・早起・朝ご飯」の意識は93.5%であった。喫食率は、朝食(97%)や給食(93%)であった。	・学年朝会で生活習慣の大切さについて話をする。 ・「生活ふりかえりカード」を実施し、意識を高める。 ・食事の大切さについて、学級活動等で具体的に指導する。	・食事と心と体と学力は直接結びついていることを常々児童に指導している。生活と食事がきちんとしている児童は着実に成長している。 ・学年が上がるごとに、就寝時刻が遅くなる傾向にある。学年が目標とする就寝時刻までに寝るよう、家庭と連携を図りながら指導を行いたい。
○ 校内環境美化	掃除の時間の充実	・学期ごとに掃除反省カードに児童相互や個人で記入することにより、意識の向上を図る。 ・縦割り掃除を無言で実施できた日を年間60日以上にする。	A	・掃除に関する意識調査では、達成状況85%以上であった。無言掃除は掃除反省カード等から60日以上達成できていると判断した。	・進行マニュアルに従って校内放送をし、掃除のがんばりを称賛する。 ・掃除反省カードを毎学期記入し、意識の向上を図る。	・縦割り掃除班でリーダーが毎日の達成状況をチェックし、また、毎学期毎に掃除反省カードで確実に振り返りをした。掃除場所への集合・整列、掃除後の反省もリーダーを中心にきちんとできている。 ・縦割り掃除をすることで、上級生と下級生のふれあいがあり、有意義である。
● 低学年学習環境の改善充実	基本的な生活習慣・学習習慣の育成	・時間を守る。 ・学習道具を揃える。 ・宿題を忘れない。 ・人の話をよく聞く。 ・姿勢を正す。 ・挨拶返事をきちんとする。 以上を重点的に徹底させる。	A	・学習面及び生活面の各項目とも80%以上とおおむね達成できた。	・話を聞く際の約束ごとを決める。 ・家庭学習の習慣を身につけさせるために、毎日課題を出す。 ・毎月の親子反省を継続して行う。	・学習面及び生活面の各項目ともおおむね達成できた。特に、学年TTを選択した2年生においては、十分達成できた。各学年で、放課後情報交換をしながら成果や課題について協議した。お互いが連携協力して指導にあたったことで生活態度や学習態度が身に付いてきた。さらに、家庭との連携を密にして生活・学習習慣の徹底を図っていきたい。
○ 魅力ある学校づくり推進事業	地域と連携した体験活動の充実 「読む力」を中核とした学力の向上	・地域人材を活用した体験活動の回数を7回に増やす。 ・特別支援学校との交流の回数を10回に増やす。 ※学力については「学力の向上」の欄に記入	A	・地域人材を活用した体験活動については9回実施することができ、目標の達成を見ることができた。 ・特別支援学校との交流については、新型インフルエンザの流行により目標には到達できなかった。	・学校園の積極的な活用 ・特別支援学校との交流を全学年で実施する。 ・保育園・幼稚園との交流を実施する。	・学校評議員・老人会長・主任児童委員・PTA会長・学校職員からなる「学校づくり委員会」を立ち上げ、栽培活動だけではなく、学校と地域が連携した体験活動を仕組むことができた。様々な体験活動を通して、児童に地域のすばらしさを実感させるとともに、関わっていただいた方々に感謝する気持ちを育てることができた。 ・この事業での取組を周知するために「リーフレット」を作成し、保護者・地域に配布した。来年度も引き続き成果指標の達成に向けて取組の強化を図る。

6 総合評価	<p>本年度は、「魅力ある学校づくり推進事業」を中心に据え、学力と豊かな心の2つの関係を車の両輪と考えて教育活動全体を推し進めてきた。その結果、知育・徳育・体育(食育)のバランスのとれた児童の育成につながったと思われる。また、アンケートの記述面から学校への保護者の関心が高いことが伺える。</p> <p>・重点目標①については、基本的な学習習慣では「学習の5つの決まり」を全校共通に指導し、落ち着いた態度で学習に取り組むことができた。基本的な生活習慣に関しては、高学年になるにつれてできるようになってきているが、やはり家庭の協力が不可欠である。</p> <p>・重点目標②については、年間2回の調査において、全学年部ともに1回目(1学期)より2回目(2学期)のほうが、すらすら読める児童の割合が増えた。目標が達成できた要因としては、各学年部のすらすら音読の目標を明らかにしたり、各学年部の児童の特性に応じて指導法を工夫したりするなど、校内研として学校全体で取り組んできたことが考えられる。また、家庭学習の指針となるリーフレット「家庭学習(宿題)のすすめ」を作成したことで、今後、より学校と家庭が連携を深めることができると思われる。</p> <p>・重点目標③については、保護者・地域の方々の支援・協力のもとに、栽培活動だけにとどまらず様々な体験活動を仕組むことができた。体験を通して、子どもたちは故郷「中原」のよさを再認識し、関わってくださった方々に感謝の念を持つことができた。</p>
7 次年度への課題・改善策	<p>○学校教育方針については、機会ある毎に情報発信をしてきた。特に、認知度を高めるには、開かれた学校づくりと連動させ、教育活動における児童の姿を通して、実感できる工夫をしていきたい。</p> <p>○基本的な生活習慣及び学習習慣については、低・中・高学年の発達段階に応じた指導を行い、確実な定着を図りたい。</p> <p>○基礎的な学力の向上に向けて、全ての学習の基礎となる「読む力」をさらに高めたい。単にすらすら読める「音読」をめざすだけでなく、内容理解のためには言葉に立ち止まらせ、言葉に帰っていかせなければならない。「音読」はそのための手だての一つであることを再認識し、自分の考えを文章や言葉で表現する言語力を育成するために、言葉に着目した国語科教育を展開していきたい。</p> <p>○地域・保護者と連携した「魅力ある学校づくり推進事業」の取組により、子どもたちがいきいきと活動する学校づくりを進めていきたい。</p>